

## 総合生存学館入学者選抜方法変更について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2023年7月22日)

先日、「令和7(2025)年度 総合生存学館博士課程(5年一貫制)入学者選抜方法等の変更について(予告)」が発表されました。それによると、総合生存学館の「一般選抜」の第一次試験として京都大学の他研究科の修士課程の入学試験に合格することを求めるようですが、私はこの点に違和感を覚えました。学部入試で例えるのであれば、「ある国立大学が後期日程入試の一次試験として他の国立大学の前期日程入試での合格を求めた」ような不可解さです。

筆答試験のコスト削減を狙ってのことと考えますが、他研究科は自分の研究科へ入学する学生を選抜するために入学試験を行っているのであり、受験料を徴収するとはいえそこに便乗するのはいささかモラルに欠けるのではないかと思います。

また、総合生存学館の受験のために自研究科の入試を受験していると把握できなければ、定員と出願人数の関係次第では総合生存学館の受験生を合格させたために自研究科への入学を志望する学生を不合格にしてしまうことも考えられ、あるいは把握していたとしても、入学を前提とせず合格(=入学許可)を出したのちに総合生存学館の二次試験で不合格になった学生の取り扱いの問題などが懸念されます。

さらに、大学院入試の中では面接で入学後の研究について質問がなされることも多く、志望していない研究科での面接を受験生に強いるのも問題があるのではないかと考えます。

以上を踏まえ、(私の前提認識が誤っていないかも確認しつつ)以下の通り質問いたします。

1. 総合生存学館一般選抜の受験生が個別に他研究科へも出願する形をとるのでしょうか、それとも総合生存学館から他研究科に対して入試業務の一部代行を依頼する形をとるのでしょうか？
2. 総合生存学館の受験生が個別に他研究科へ出願する形をとる場合、総合生存学館受験のための出願である旨を伝えさせるのでしょうか？(伝えさせない場合は明らかなフリーライドのように思われますがその認識でよろしいでしょうか？)
3. 第一次試験として扱った他研究科の入学試験に合格し、第二次試験の総合生存学館による面接で不合格であった学生のその後について、どのような認識で制度設計を考えておられたのでしょうか？
4. 他研究科の入学試験について、筆答試験以外の試験(小論文、面接、外部英語試験のスコア提出等)も受験させる前提で考えておられたのでしょうか？
5. 今回の入学者選抜方法変更にあたって、列挙された京都大学の各研究科の承諾を得られたのでしょうか？

以上、ご回答よろしくお願いたします。

【回答】(回答日:2023年8月2日)

(回答部署:総合生存学館事務部)

ご意見頂戴ありがとうございます。  
以下の通り回答させていただきます。

1. 2. 総合生存学館から他研究科に対して入試業務の一部を委託するものです。
3. 総合生存学館の入試について不合格となります。
4. 各研究科に委託する第一次試験の内容については、現在、各研究科と調整中です。
5. 当然、承諾を得ております。